

杭全地区の基礎情報

1. 計画の位置づけ

上位計画

新・大阪市緑の基本計画(H25.1)

基本理念

みどりの魅力あふれる大都市・大阪

～だれもが住みたい・働きたい・訪れたいと思う“みどりの都市”へ～

＜保全配慮地区の考え方＞

- 風致景観の保全、生態系の保全、市民の自然とのふれあいの場提供の観点等から、今後の地区内における緑地保全施策、保全配慮計画を検討・策定し、実践していく。
- みどりの保全の重要性を明らかにし、意識啓発を図り、市民・事業者・行政が一体となって貴重なみどりの保全につなげていく。

＜保全配慮地区の設定＞

- 大阪の個性を特徴づける“みどりの骨格”に位置づけているエリアを中心に、4地区を設定

- ① 夕陽丘・生玉地区
- ② 天王寺地区
- ③ 杭全地区
- ④ 聖天山地区



関連計画

大阪のまちづくりグランドデザイン(R4.12)

- まちづくりの基本目標
「未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり」
- まちづくりの戦略と取組と方向性が示されており、みどりに関連するものとして以下が挙げられている。
 - ・ 多様な地域資源を活かした魅力あふれる都市空間
 - ・ 豊かな都市空間を想像するまちづくり
 - ・ グリーン社会実現に向けたまちづくり など

大阪市生物多様性戦略(R3.3)

- 杭全神社、杭全保全配慮地区を、「生態系ネットワークの拠点となりうる貴重な自然環境」と位置づけ

平野区将来ビジョン(R4.4)

- 将来像実現に向け以下のようなみどりに係る取組が挙げられている。
 - ・ 区民ニーズを踏まえた未利用地の有効活用
 - ・ 高齢者が地域活動に参画できる環境づくり など

大阪市景観計画(R2.10)

- 景観形成の目標
- 都市の風格や活力を高め、まちへの愛着や誇りを育む大阪らしい景観をつくる

風の道ビジョン(H23.3)

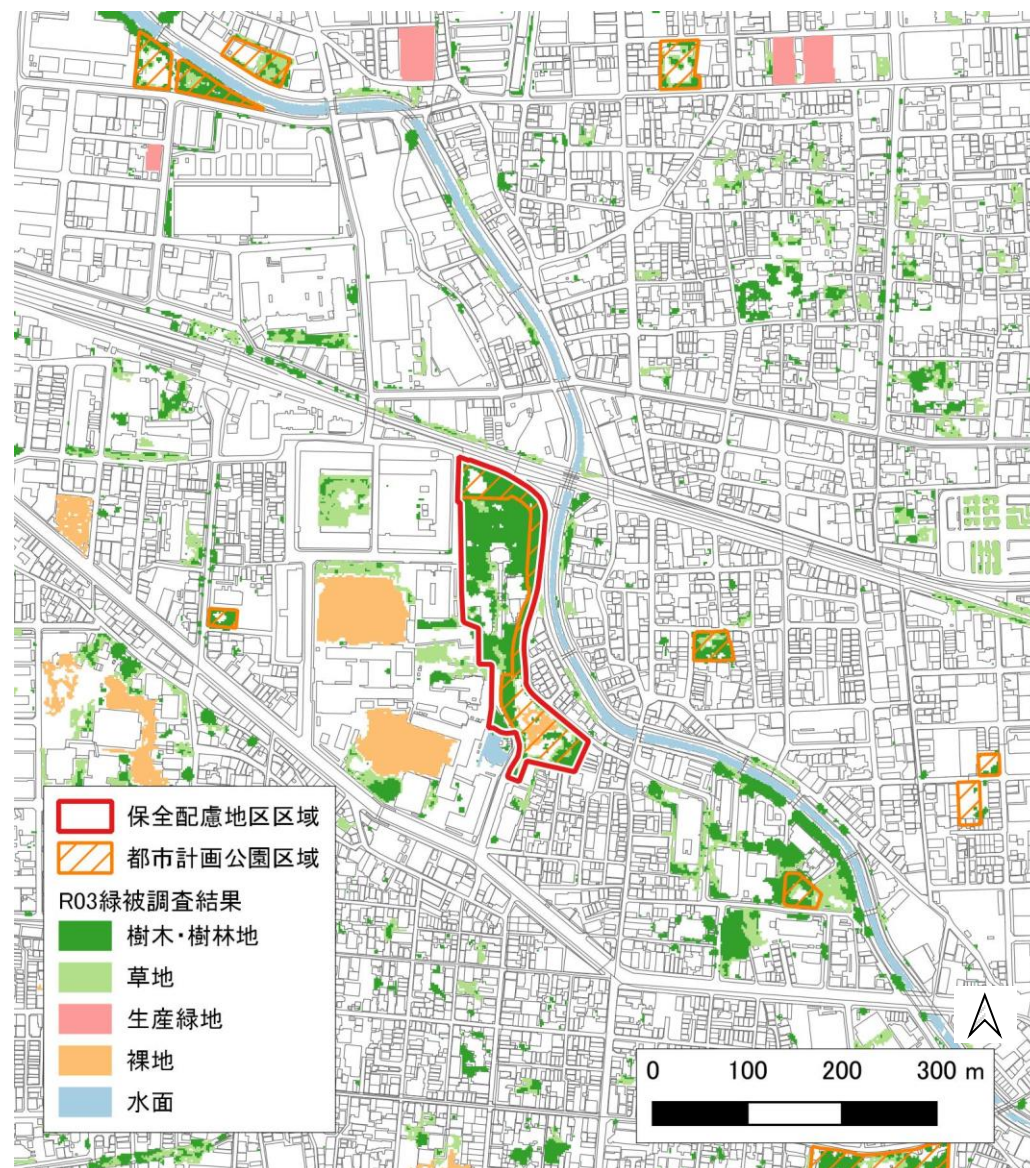
- 将来像
「水と緑に包まれ心地よい風が流れる環境先進都市 大阪」
- 3つの戦略
 - ・ 風通しのよいまちをつくる
 - ・ 涼しい『風』を保つ
 - ・ 協働と連携を強化する

上位計画・関連計画を踏まえ、「杭全保全配慮計画」を今後作成

2. 杭全地区の現況

(1) 地区の概要

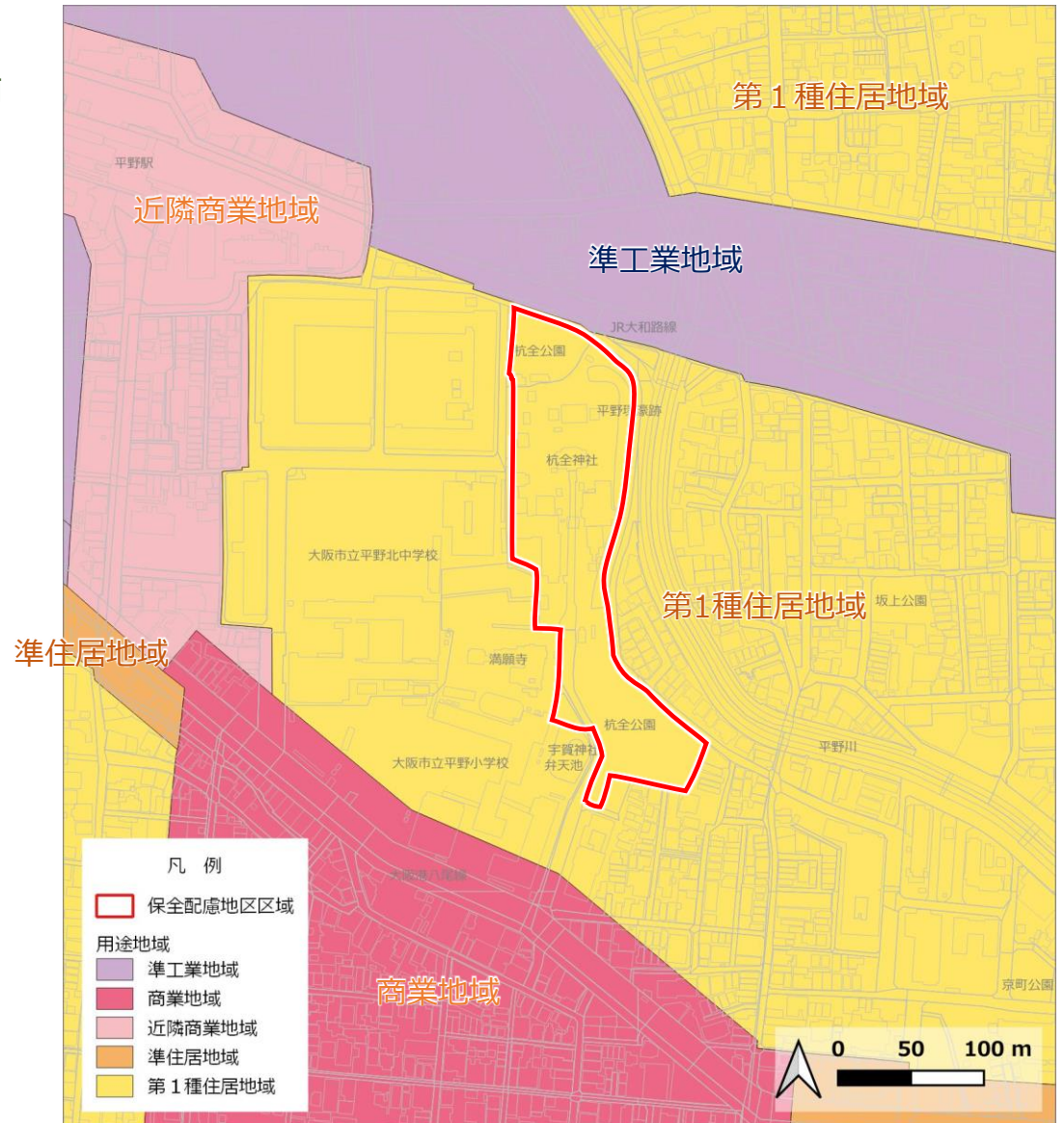
- 杭全公園、杭全神社の一団の緑が残るとともに、平野環濠跡など地域の歴史的景観を残している。
- 全域が、平野郷地区HOPEゾーン区域に指定されている。
- 杭全神社のクスノキは天然記念物に、イチョウは保存樹に指定されている。
- 杭全公園はかつて池であったが、昭和中期に埋め立てられ公園として整備されている。
- 杭全公園の東側には、平野環濠を忍ばせる土塁が見られる。



地区概要図

(2) 用途地域

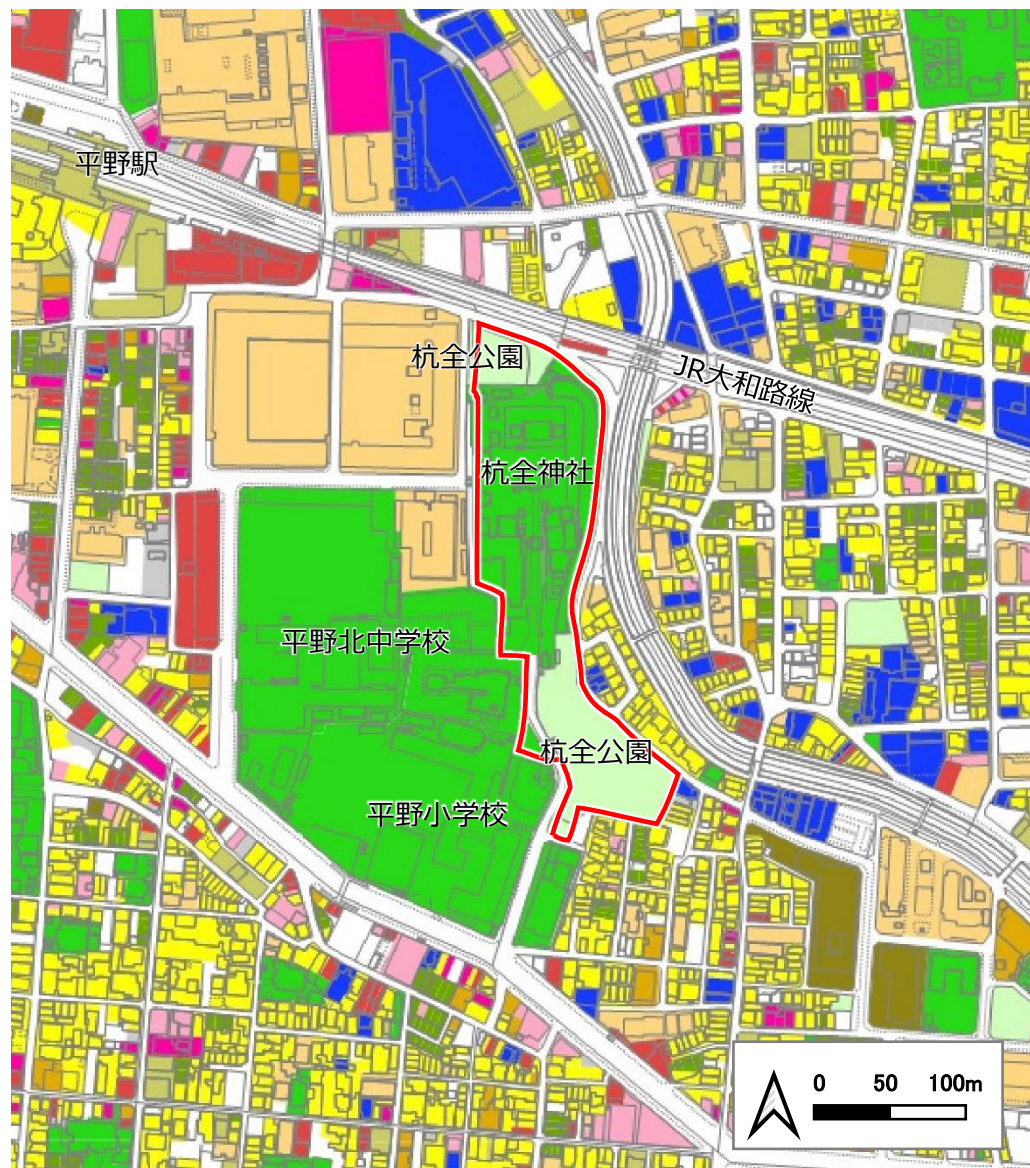
- 杭全地区は、全域が第1種住居地域に指定されている。
- 周辺地域について、地区の北側は準工業地域、南側は商業地域に指定されている。



用途地域図

(3) 土地利用

- 地区の中央部に杭全神社境内があり、北西部と南部は杭全公園となっている。
- 地区の周辺では、西側に集合住宅と小・中学校があるが、基本的に戸建て住宅地となっている。
- 北側には東西にJR大和路線が通り、北西側に平野駅がある。



※マップナビおおさか『令和3年度土地利用現況』に一部追記
土地利用図

(4) 公園緑地等

- ・ 北西側・東側の周縁部・南側に、都市計画公園の杭全公園（地区公園）がある。
- ・ 地区の南側を通る大阪港八尾線に街路樹が整備されているが、現在は植栽帯含めて撤去されている。

(5) 地域制緑地等

- ・ 地区のほぼ全域が、杭全風致地区に指定されている。
- ・ 杭全神社境内のクスノキ2本とイチョウ1本が保存樹に指定されている。境内入口にあるクスノキは、府指定天然記念物に指定されている。

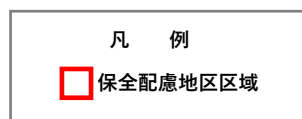


緑地等の位置図

(6) 主な施設等

1) 学校およびその他の施設

- 地区の周辺地域には、平野小学校や平野北中学校などがある。



※マップナビおおさか『施設情報マップ』に一部追記

学校・文化施設・福祉施設等位置図

(6) 主な施設等

2) 神社・寺院

- 地区内の神社として、杭全神社がある。
- 地区の周辺部にはいくつかの寺社があり、杭全神社から直線距離で約450m南西側には融通念佛宗総本山の大念佛寺がある。

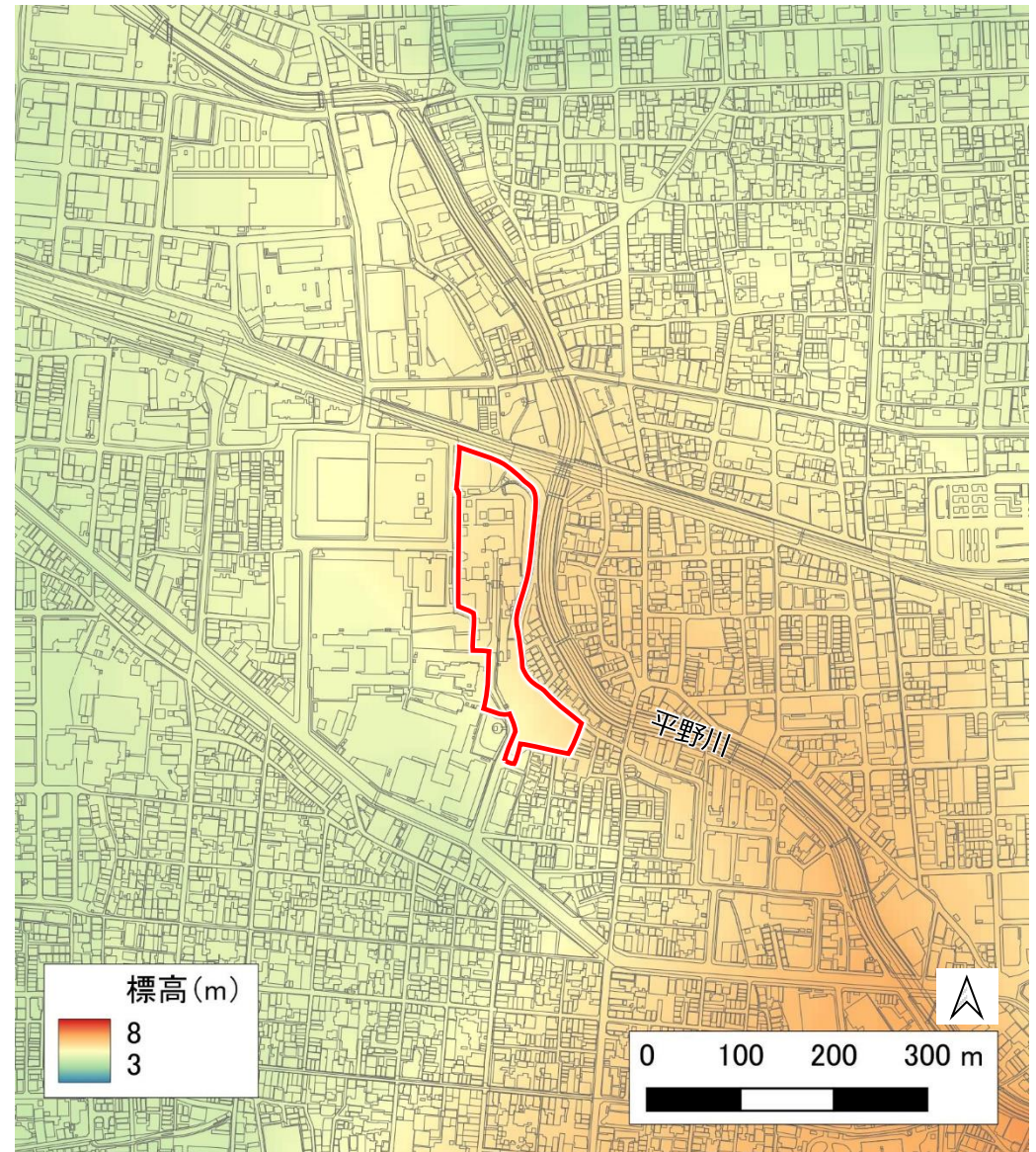


神社・寺院位置図

(7) 自然環境

1) 地形

- 地区は、平野川沿いの微高地(自然堤防)上に位置する。
- 周辺地は氾濫平野のため土地の起伏は少なく、標高は10m前後である。



※数値標高モデル5mメッシュ(基盤地図情報)より作成
地形図

(7) 自然環境

2) 植生等

- 大阪市生物多様性戦略において、杭全神社および杭全保全配慮地区は生態系ネットワークの拠点となりうる貴重な自然環境として位置づけられ、保全に取り組むこととされている。
- 令和4年(2022)に実施された大阪市域生き物調査では以下の点が指摘されている。

【大阪市域生き物調査における指摘内容】

- 杭全公園は 2018 年台風 21 号の影響か、大きな樹木が伐採され、枝が整理されているように思われた。
- 杭全神社境内宇賀神社の弁天池では、前回ウシガエルが見られ、今回はミシシippアカミミガメが見られた。

杭全神社No.766

・アゲハ4
・オオスカシバ2
・キタキチョウ4
・クサカゲロウ科の一種2
・クマゼミ0羽化殻
・ハシブトガラス4
・ヒロヘリアオイラガ0羽化後繭
・フタホシヒラタアブ4
・モンシロチョウ4

アカメガシワ1,4
アラカシ●3
アレチギンギン1
イヌビロ1,4
イロハモミジ●1
エノキ4
エノコログサ3
オガタマノキ●3
カエデ属の一種●1
キカラスウリ1

キンモクセイ●2
クズ1
サンゴジュ4
セイタカアワダチソウ1
チャノキ●3
ツユクサ2
トウネズミモチ4
ドクダミ1
ナキリスゲ2,3
ナンテン4

ノキシノブ1
ヒメムカシヨモギ2,3
ヘクソカズラ1
マツゲゴケ1
マデバシイ4
マンリョウ3,4
ムカデコゴケ1
ムクゲ4
ムクノキ4
ヤブガラシ1

ユズリハ●1,4
レブラゴケsp.1

杭全公園No.795

・アオスジアゲハ4
・アブラムシ科の一種(アキニレ)2,4
・アブラムシ科の一種(ノゲシ)2,4
・オオスカシバ2
・クロヤマアリ4
・サンゴジュハムシ4
・タマカタカイガラムシ2
・ドバト4
・トビイロケアリ4
・ナシグンバイ0食痕
・ネコハエトリ4
・ヒメデントウ亜科の一種4
・ヒメバチ科の一種4
・ヒヨドリ0声
・ヒロヘリアオイラガ0羽化後繭
・ホソヒラタアブ2
・モンシロチョウ4
・ヤマトシジミ4
・ユスリカ科の一種4

・ワタアブラムシ2,4
・アオイゴケ2
アカメガシワ4
アキニレ●1,4
アメリカアサガオ2
アラカシ●3
イシクラゲ1
イヌタデ2
イヌホオズキ2
ウチワゼニクサ●1
ウラジロチチコグサ1
エノキ4
エノキグサ3
エノコログサ2,3
オッタチカタバミ2,3
オヒシバ2,3
カゼクサ3
カタバミ2,3
キカラスウリ1
クズ1

コニシキソウ2,3
コミカンソウ3
サンカクカタバミ●2
シロツメクサ1
スベリヒユ3
セイタカハハコグサ2,3
センダン4
ダイダイゴケ科の一種1
チチコグサモドキ2
ニワゼキショウ2
ニワホコリ3
ネズミモチ3
ノゲシ2,3
ヒメジョオン1
ヒルガオ科の一種2
フジ●1
ヘクソカズラ1
ホトケノザ1
マメアサガオ2,3
ムカデコゴケ1

メヒシバ2
メリケンガヤツリ2,3
メリケンカルカヤ2
ヤハズエンドウ1
ヤブガラシ1
ヨウシュヤマゴボウ3
ヨシ3
ヨモギ2
外来タンポポの一種3

〈観察された生き物の記録〉



環濠No.766

・クสบエニヒラタカスミカメ0食痕
アケビ1
キカラスウリ1
クズノキ1
ショウブ1
ハンゲショウ1

杭全公園弁天池No.795

・クマゼミ0羽化殻
・ハクセキレイ4
・ミシシippアカミミガメ4
アカメガシワ4
エノキグサ3
セイタカハハコグサ3
ニワホコリ3
ノゲシ2,3
ヒルガオ科の一種2
メリケンガヤツリ2
ヨシ3

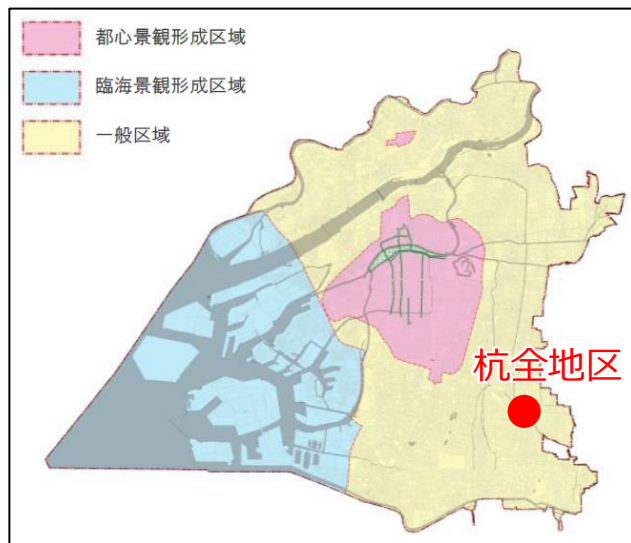
【出典：大阪市域生き物調査 平野・加美（2022.10月実施）より作成】
種名とともに、状態を表す記号を付記。

- 1: 葉, 卵, 配偶体(蘚苔類等) 2: 花, 幼虫, 幼鳥, 孢子体未成熟(蘚苔類)
3: 果実, 蛹, 孢子体成熟(蘚苔類) 4: 実生, 成虫, 成鳥, 枯死, 休眠(蘚苔類)
0: 孢子, 無性芽(蘚苔類), その他

※植栽樹木は位置の目安として、または花や果実がついている場合のみ記録
「・」: 動物 「●」: 植栽, 逸出と思われる植物
「◎」: 親木が近い実生 「★」: 特定外来生物

(8) 景観計画

- 地区の全域が、「大阪市景観計画」における基本届出区域のうち、一般区域に含まれている。
- 都市景観資源としては、平野環濠跡と杭全神社が指定されている。



【大阪市景観計画における景観計画区域】



景観計画に係る区域設定および都市景観資源位置図

(9) 歴史文化

1) 地区の歴史

- 杭全神社は平野郷の産土神となっており、杭全神社の緑地は地元の神様を祀る神社の社叢林として古来より守られてきたと考えられる。
- 杭全神社は環濠集落の一部であり、周囲の濠は環濠集落の面影を残す唯一の濠である。
- 市街化が進み、周囲に広がっていた水田はほとんどなくなり、まとまった緑地は数少なくなっている。



主な歴史文化資源位置図

(9) 歴史文化

2) 文化財

- 国指定の重要文化財として杭全神社本殿(第一殿、第二殿、第三殿)がある。
- 府指定の天然記念物として杭全神社のくすがある。
- 市指定の有形文化財として杭全神社の連歌所がある。

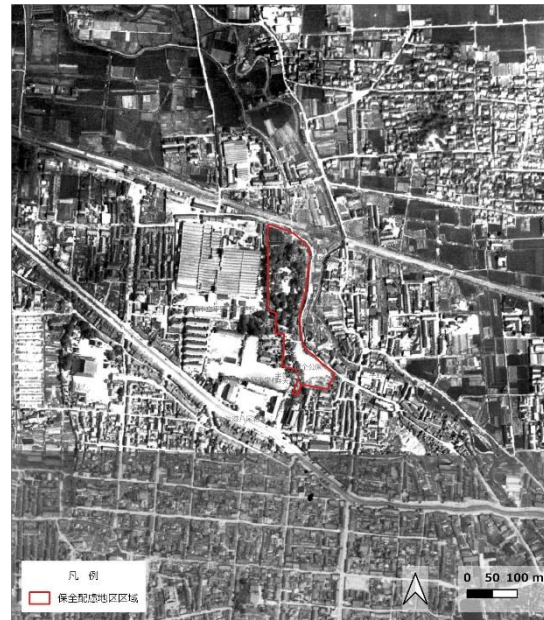


指定文化財等位置図

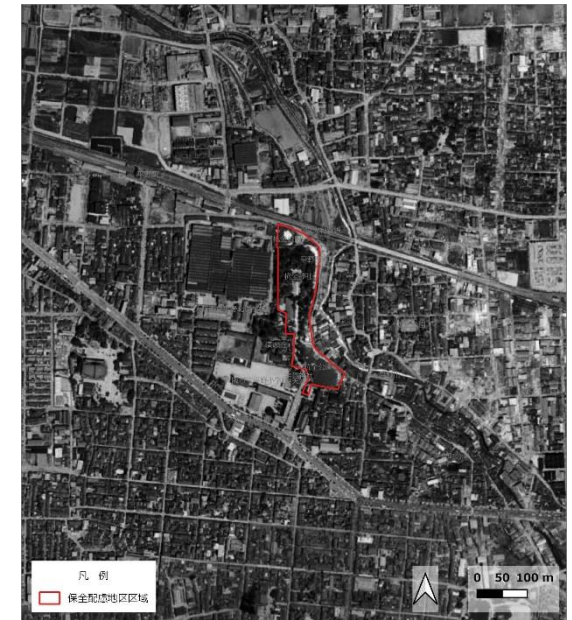
(9) 歴史文化

3) 土地利用の変遷

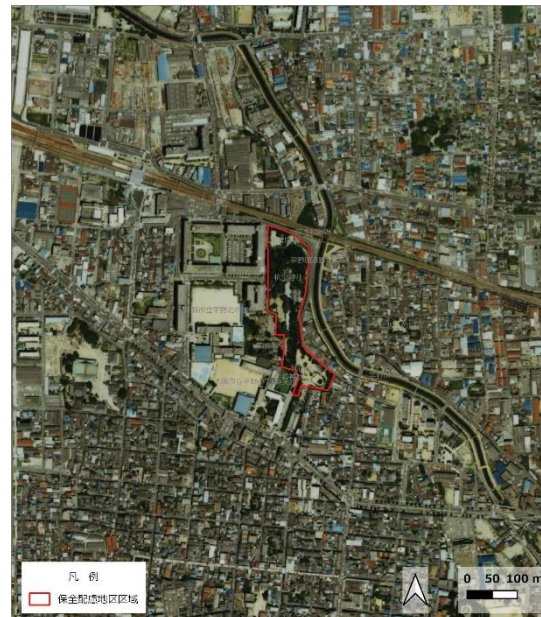
- 1948年から2023年までの航空写真を右に示した。
- 周辺のまちなみは宅地化が進行しているが、杭全神社の社叢はよく残っていることが分かる。



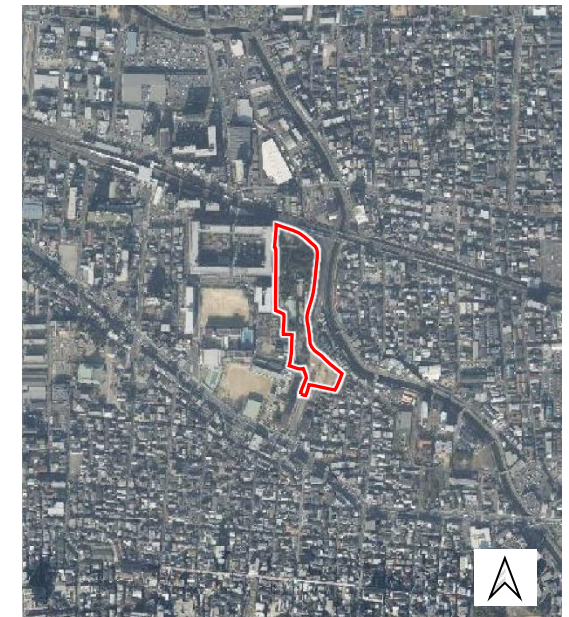
1948年(米軍撮影)



1961～1969年(国土地理院撮影)



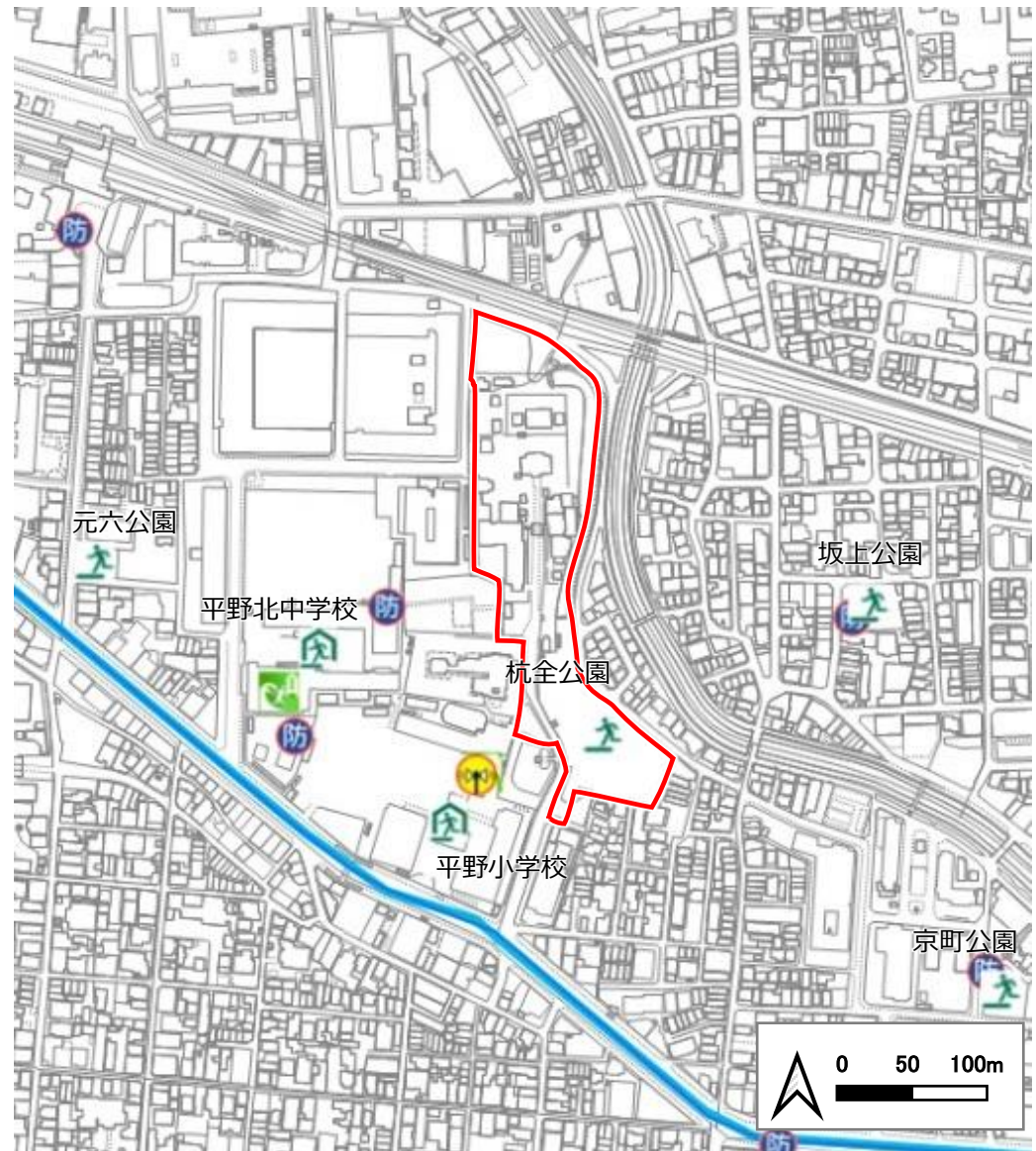
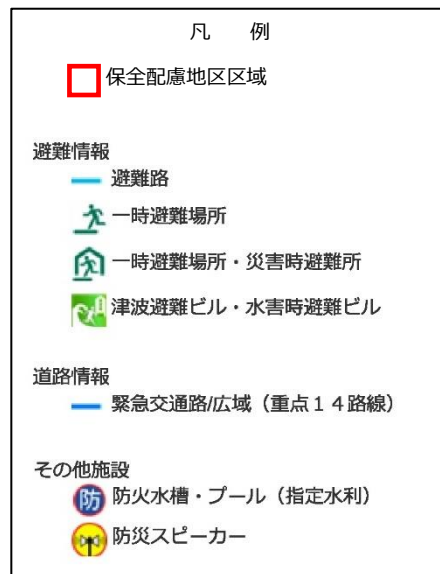
1984～1986年(国土地理院撮影)



2023年(マップナビおおさか)

(10)地域防災計画

- 大阪市地域防災計画では、杭全公園が一時避難場所に指定されている。地区の西側の平野小学校と平野北中学校はともに、一時避難場所及び災害時避難場所に指定されている。
- 地区の南側を通る大阪港八尾線は、緊急交通路(重点14路線)および避難路に指定されている。



※マップナビおおさか『防災関連施設』に一部追記

地域防災計画における避難場所・避難所、緊急交通路等

○杭全神社

- ・ 杭全神社の創建は、平安初期にさかのぼる歴史を有し、中世以降は環濠集落である平野郷の産土神として、地域の人の心の拠り所になっていた。
- ・ 日本で唯一残されている連歌所での連歌会は、明治以降廃れていたが、昭和62(1987)年に復活され、現在も毎月定期的に平野法楽連歌会として催されている。
- ・ 年間25件ほどでの祭礼行事があり、夏祭り、秋祭り(鎮守の森フェスティバル)など多くの市民が参加するイベント的行事も多い。

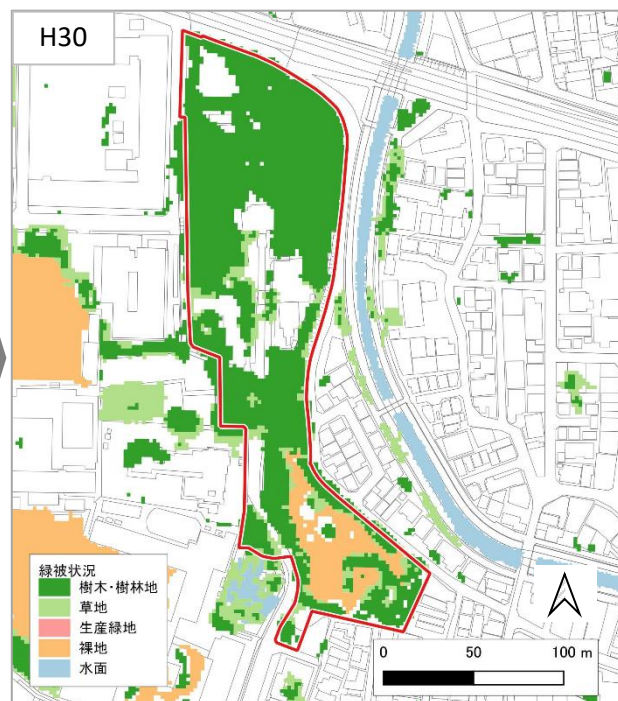
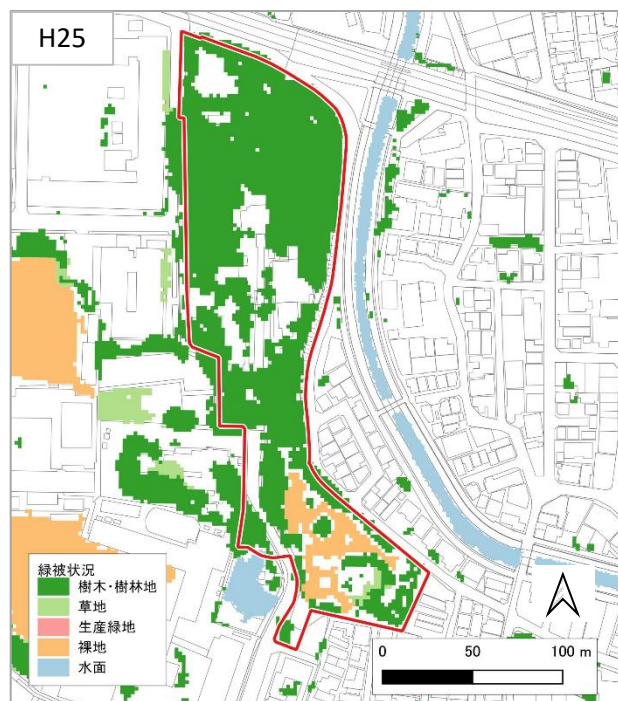
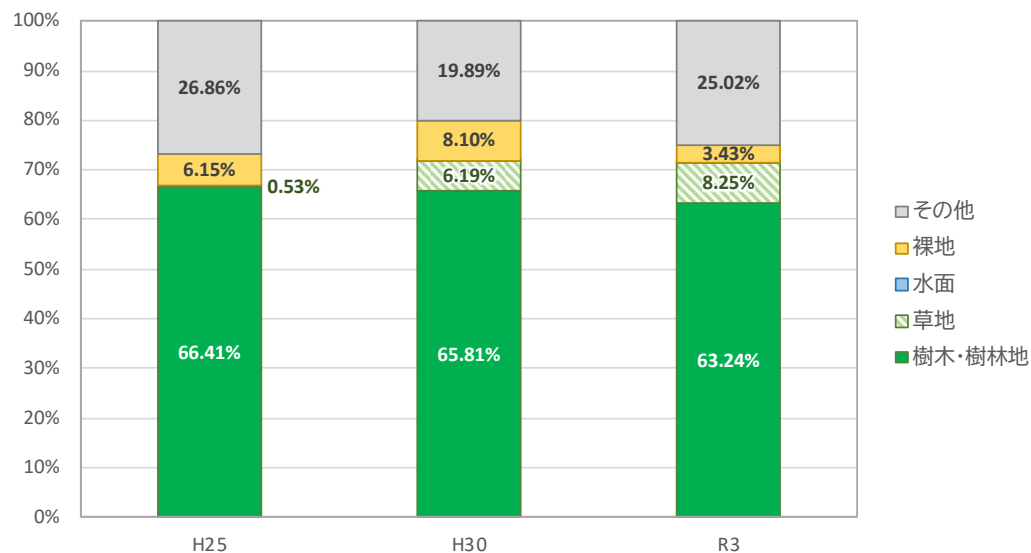
○関連する活動団体

- ・ 本地区の環境を主として、一斉清掃活動が、大阪平野ロータリークラブを中心に実施されており、年1回の一斉清掃とあって、多くのボランティアが参加したイベントとして定着している。
- ・ 昭和44(1969)年11月30日に結成された杭全公園愛護会(現在の活動者数13人程度)が、公園内の清掃、除草を実施している。
- ・ 平野のまちづくり全体に関しては、「平野の町づくりを考える会」の活動がある。年1回開催される「平野町ぐるみ博物館」は、その主要な取り組みの一つとなっており、杭全神社も会場の一つとなっている。

[illegible]

(12) 緑被の状況

- 地区内の北部の区域に特にまとまった緑があり、南側は公園内の樹木が抽出されているが、北部に比べると裸地が見られる。
- 地区内の緑被率(樹木・樹林地、草地)は概ね70%程度で推移している。内訳をみると、樹木・樹林地の面積が減少し、草地の面積が増加している。



3. 現地調査結果

(1) 杭全公園(北側)、杭全神社、平野環濠跡



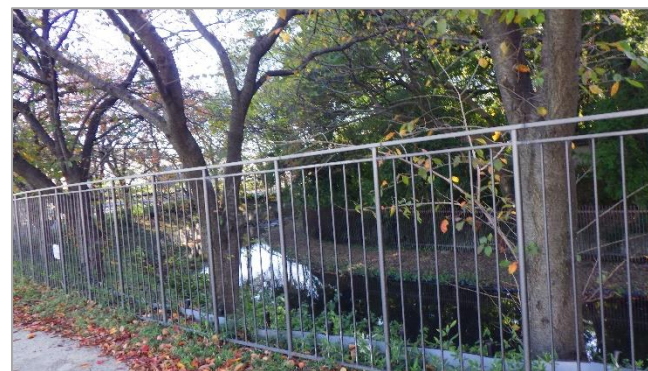
〈公園内〉

- 周囲が樹木で囲まれ、みどりを身近に感じることができる。
- 樹木が大きく成長しており、公園内が薄暗い印象がある。



〈環濠跡〉

- 地域の団体により草刈・清掃が行われている。
- 柵で周囲を覆われているため親水性が低い。



〈境内の緑〉

- 本殿を囲むようにクスノキ等の大木が見られる。



〈周辺地域〉

- 東側には平野川を挟んで住宅地が広がる。



(2) 杭全公園(南側)

〈南北エリアの連続性〉

- 公園内の北側・南側のエリアが歩行空間でつながっているものの、一体的な空間と感じられない。

〈弁天池〉(保全配慮地区外)

- 過去の調査でミシシippアカミミガメ等の外来種が確認されている。
- 生態系保護等の観点から、捕獲が進められている。



〈施設等の管理〉

- 使用禁止となっている遊具があり、公園の利用や景観に悪影響を与えている。



〈公園内〉

- 公園樹や遊具等があり、開放的な空間となっている。



〈植栽等の管理〉

- 植樹柵周辺の根上がり、雑草の繁茂等が見られる。

